

鳥取県福祉研究学会創立10周年記念第10回研究発表会 発表要旨等一覧

口述発表

| No. | 分野 | 分野No. | 分科会場 | 発表時間 | 発表テーマ | 発表要旨 | 研究代表者氏名 | 研究代表者所属機関・団体 | 共同研究者（所属省略） |
|-----|----------------|-------|-------|-------------|---|---|--------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 | 高齢者福祉 (施設系) | 1 | ホール | 10:30～10:50 | 他業種から介護職へ ～介護現場で働く喜び～ | 他業種から、まったく未経験の介護施設に転職し、介護職としてぶつかる壁を解決しながら、やりがいを見つけ、キャリアアップできた事例について問題点や経過、今後の対策などをまとめた。 | タケウチ コウジ 竹内 幸治 | 社福) 賛幸会 老人保健施設 はまゆう | 渡繪 恵介 諸家 朗夫 西尾 浩二 西尾 知子 |
| 2 | 高齢者福祉 (施設系) | 2 | ホール | 10:50～11:10 | A氏の希望を尊重しつつ浮腫を軽減するための取り組み | A氏は下肢に浮腫があるにもかかわらず、一切臥床せずに日中を過ごす。部屋に帰りたくない、自分でやれる事はやりたい、というA氏の希望を尊重しつつ浮腫を軽減し、転倒のリスクを回避する必要があると考え、介護計画を立案した。単に臥床をして浮腫を軽減するのではなく、A氏の思いに応える事がA氏の満足した日々につながるのではないかと考える。 | イシハラ ユミ 石原 由美 | YMCA米子医療福祉専門学校 | 藤原 紀子 |
| 3 | 高齢者福祉 (施設系) | 3 | ホール | 11:10～11:30 | スペシャルデー ～思い出に残る特別な1日を～ | 実施している行事を見直し、ご利用者様、ご家族様の希望に添った行事を個別に計画することで、更なる満足度と生活の質の向上を目指します。 | ヨネムネ ツム 米本 務 | 社福) みのり福祉会 特別養護老人ホーム 倉吉スターロイヤル | 中松 良重 栗坂 里美 小原 希味子 |
| 4 | 高齢者福祉 (施設系) | 4 | ホール | 11:30～11:50 | 筋緊張の緩和・正しいポジショニングから見える身体変化とは ～1から始める拘縮予防、姿勢が変われば暮らしが変わる～ | A様は右半身麻痺、関節の強い拘縮があり関節可動域に制限、そして常時口が開いた状態である。臥床時にリラックスできる状態を模索している時、平成27年12月にポジショニングの研修を受講したことがきっかけで他職種連携を図り、ポジショニングに取り組んだ結果、表情や筋緊張などの緩和の効果がみられたので報告する。 | ナカザワ ユウト 中澤 優斗 | 社福) こうほうえん 新さかい幸朋苑 | 加藤 由紀 遠藤 慎一 |
| 5 | 高齢者福祉 (施設系) | 5 | ホール | 13:00～13:20 | 社会貢献活動を通して | 社会福祉法人の役割として「社会貢献活動」「地域における公益的な取り組み」が求められるなか、90名のご利用者に対して介護職員も18名でケアを行っているが、外に出向いていくことも困難で苦慮していた。そんな中、施設内でできる社会貢献活動と出会った。その取り組みを発表させていただく。 | カミムラ シノブ 中村 志乃 | 社福) 鳥取福祉会 養護老人ホーム鳥取市なごみ苑 | 山本 武憲 |
| 6 | 高齢者福祉 (施設系) | 6 | 中研修室A | 10:30～10:50 | 白いご飯が1番おいしい ～経管栄養から経口摂取へ～ | 自立した日常生活を送っていた入居者が病気により身体機能が低下した。胃瘻増設後も家族の希望に応じて経口摂取への取り組みと多職種の連携により、QOLが向上した事例を報告します。 | ギョウブ カズヒコ 刑部 和彦 | 社福) 賛幸会 グループホーム はまゆうの里 | |
| 7 | 高齢者福祉 (施設系) | 7 | 中研修室A | 10:50～11:10 | 転倒を繰り返す利用者の根本原因追及への取り組み | 高齢者施設における転倒防止は重要課題のひとつである。転倒がなくならないのは、再発防止策に問題があるのではないかと着目し、転倒を繰り返す利用者にRCA分析からの再発防止策を実施した結果、効果が得られたので課題とともに報告する。 | タナカ ヒロシ 田中 博志 | 社福) こうほうえん いなば幸朋苑 | 治部田 晃典 村田 律子 |
| 8 | 高齢者福祉 (施設系) | 8 | 中研修室A | 11:10～11:30 | 高草あすなる看取り介護への取り組み ～エンディングノートから見えた大切なこと～ | 特養における看取り介護の実践は全国的に7割に達している。当施設でも看取り介護を行っているが、今後さらに看取り介護を行う上で、家族とのかわり、職員の知識向上は必要と思われる。昨年度における活動と結果を報告する。 | タナカ マサキ 田中 理規 | 社福) あすなる会 高草あすなる | |
| 9 | 高齢者福祉 (施設系) | 9 | 中研修室A | 11:30～11:50 | 入居者の食べる楽しみを支えて～最期まで口から～ ー口腔嚥下機能検討委員会発足からの軌跡ー | 高齢者にいつまでも「食べること」を楽しみとして感じてもらうことが出来るよう、口腔支援を充実させるため多職種で連携した取り組みを報告する。 | モリ ユウコ 森 由布子 | 社福) 鳥取県厚生事業団 いこいの杜 | 岡島 由佳里 藤岡 あゆ美 村岡 奈保子 |

| No. | 分野 | 分野No. | 分科会場 | 発表時間 | 発表テーマ | 発表要旨 | 研究代表者氏名 | 研究代表者所属機関・団体 | 共同研究者（所属省略） | |
|-----|----------------|-------|--------|-------------|--|--|------------|--------------|---|--|
| 10 | 高齢者福祉 (施設系) | 10 | 中研修室A | 13:00～13:20 | ポジショニングと負担の少ない移乗介助を目指して ～安全・安心なケアの為に～ | 現在、担当利用者25名の平均介護度は4.8であり、拘縮の進行に伴う皮下出血や褥瘡のリスクも高くなっている。また、職員2名での抱え上げ移乗、同一方向からの横抱き移乗等の持ち上げる移乗方法は、利用者・職員共に負担となっていた。この点について、ポジショニング技術の向上や福祉用具を適切に選定し活用する為のシステムを構築した。その結果、対象者の日か出血の減少・筋緊張の緩和・負担の少ない移乗技術の習得・職員の意識向上などの成果を得ることが出来た。今後、『根拠に基づく介護スキルの習得・計画・実践・評価』の一連のサイクルをさまざまな場面で応用することで、事業所全体への波及を目指したい。 | オクダ 奥田 | リエ 理恵 | 社福) 鳥取福祉会 特別養護老人ホーム若葉台 | 野村 美香 |
| 11 | 高齢者福祉 (在宅系) | 1 | 中研修室C | 10:30～10:50 | 認知症に係る地域の保健・福祉・医療の連携を目指す取り組み ～鳥取県認知症疾患医療センターにおける事業を振り返って～ | 高齢化が進み、認知症の人とその予備軍がさらに増加していく中で、早期診断、早期対応を軸とした認知症の容態に応じた切れ目ない適時・適切な医療・介護等の提供が図られる仕組みの構築など、認知症の人にやさしい地域づくりが求められている。当研究発表では、認知症疾患医療センターとしての活動をまとめ、得られた成果や課題を集約し、今後にかかしたい。 | トクダ 徳田 | ユウイチ 裕一 | 鳥取県認知症疾患医療センター (社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院) | |
| 12 | 高齢者福祉 (在宅系) | 2 | 中研修室C | 10:50～11:10 | 失語症者が代償手段を用いて“あいさつ”を伝える効果 | 失語症者は、重症度にかかわらず発話に対する自信のなさや周囲の人々の失語症に対する誤解から、コミュニケーション機会の減少や意欲の低下が示唆される。失語症者が気持ちを伝える代償手段として「あいさつカード」を作成及び利用する過程で、コミュニケーション意欲の向上や機会に変化がみられた症例を報告する。 | シギノウ 執行 | セイジロウ 誠二郎 | 社福) こうほうえん 通所リハビリテーションさかい幸朋苑 | |
| 13 | 高齢者福祉 (在宅系) | 3 | 中研修室C | 11:10～11:30 | 独居高齢者の在宅生活を支えるケアマネジャーの役割 | 地域包括ケアシステムの推進が本格化し、ケアマネジャーは在宅生活を可能にするマネジメント力が求められ、重要な役割を担っている。10名のケアマネジャーが担当している360名の内、地域で暮らす独居利用者25名を対象に、1年間の経過を追跡し、どう支援すれば自宅で生活ができるようになるのか、課題が明らかになってきた。 | ヤマネ 山根 | ジュミ 樹美 | 社福) こうほうえん ケアプランセンター鳥取北 | 渡辺 淳子 |
| 14 | 高齢者福祉 (在宅系) | 4 | 中研修室C | 11:30～11:50 | 訪問介護における業務効率化の取り組み －ICTの活用－ | ICTを活用しての業務効率化、情報共有の取り組みについて | アズミ 安住 | トモヨ 友世 | 社福) こうほうえん 訪問介護事業所にしまち幸朋苑 | 上田 真奈美 |
| 15 | 障がい児・者 福祉 | 1 | 第1小研修室 | 10:30～10:50 | 地域に溶け込む新しい形を求めて ～ささやかな暮らしを重ね人生を彩る～ | 当会は、聴覚障がいのある方々に着目しながら、地域の中での実践を深めることで自然と障がいへの理解が深まることを目指し各種事業に取り組んでいる。このたびは、当会発足の背景や現状、実践から見えてきた新たな課題や展望について発表させていただきたい。 | モリタ 森田 | タダマサ 忠正 | 西部ろうあ仲間サロン会 | 杉本 清司 森田 次江 森田 絵里 福本 真理子 伊地知 孝子 笹間 真智子 松井 洋子 和田 雅子 田辺 大起 長谷川 晋之 |
| 16 | 障がい児・者 福祉 | 2 | 第1小研修室 | 10:50～11:10 | こんな身体だから何もできないよ ～できるようになった喜びがもたらしたA氏の変化～ | A氏は機能回復訓練以外の活動に消極的だった。A氏の思いや身体機能に留意し、活動の幅を広げる目的で水分補給の自力摂取を提案し関わった。介護計画実施中、意欲的に水分補給の練習に取り組む姿が見られた。さらに、日中活動に主体的に参加するという変化があった。このことから、介護計画実施のために整えた環境は、A氏にとって最適なものとなり、自立への意欲を引き出したのではないかと考える。 | ノグチ 野口 | タカヒロ 貴裕 | YMCA米子医療福祉専門学校 | 増田 孝之 |
| 17 | 障がい児・者 福祉 | 3 | 第1小研修室 | 11:10～11:30 | よみがえれ しなやかさ ～転倒予防体操～ | ユニット利用者の半数以上が機能低下のみられはじめる年齢をむかえていた。1～2年前より、転倒によるヒヤリハット件数も増えてきた事もあり。利用者の高齢化が始まっている現状から、機能低下防止対策として、転倒予防体操に取り組んだ内容を報告する。 | ウチダ 内田 | カズエ 和枝 | 社福) あすなる会 松の聖母学園 | 大西 美由紀 谷口 武之 田島 義隆 太田 真由美 |
| 18 | 障がい児・者 福祉 | 4 | 第1小研修室 | 11:30～11:50 | 白兔はまなす園での就労支援の取り組みから | 白兔はまなす園で平成26年度から就労支援に取り組んできた内容を発表します。事例から出てきた課題の取り組みを就労準備研修会を中心に発表します。 | オカエ 岡前 | ヤスシ 靖 | 社福) 鳥取県厚生事業団 白兔はまなす園 | |

| No. | 分野 | 分野No. | 分科会場 | 発表時間 | 発表テーマ | 発表要旨 | 研究代表者氏名 | 研究代表者所属機関・団体 | 共同研究者（所属省略） |
|-----|----------|-------|------------|-------------|---|---|--------------------------------------|-----------------------------|--|
| 19 | 障がい児・者福祉 | 5 | 第1小研修室 | 13:00～13:20 | グループホームサービス管理責任者・世話人との連携について ～大きな声が時間・場所問わず出てしまう方への取り組み～ | グループホームから鹿野第二かちみ園の生活介護を利用されているM様という女性への取り組みです。時間・場所を問わず出てしまう大声の原因を知ることと、大声の軽減を目指し、園独自で取り組みを開始し、グループホームとの連携へとつなげていった事例の報告をします。 | ムラシマ リサ 村島 梨沙 オクダ ユウコ 奥田 裕子 | 社福）鳥取県厚生事業団 鳥取県立鹿野第二かちみ園 | 川口 保則 山根 花奈 山内 駿二 |
| 20 | 障がい児・者福祉 | 6 | 第1小研修室 | 13:20～13:40 | 行動障がいのある児童への支援の実践報告 『問題行動をなくすことだけでなく、その生活の質の向上への支援』の考察 | 行動障がいのある児童の理解と信頼関係、支援のあり方 ○意思決定（余暇充実）の支援 ○コミュニケーションの支援 ○集団適応の支援 | ノダ ショウタ 野田 将太 | 鳥取県立皆成学園 | 西谷 明日香 山本 絵美 谷口 真治 |
| 21 | 児童福祉 | 1 | 第2小研修室 | 10:30～10:50 | 体力づくりを通して心身ともにたくましい子を育てるために | 日々の活動や遊びの中で、一人一人の意欲、体力や筋力の向上を図る為、「戸外遊び、歩くことを活動に多く取り入れる」「毎日の隙間時間を使つての身体づくりにつながる運動」「当番活動での雑巾がけ」を続けてきたことで、子ども達に変化が見られたことを、足型、脊柱の比較を行い、そこから分かった成果・課題を発表する。 | タニシゲ マユミ 谷繁 真由美 | 社福）あすなる会 久松保育園 | 稲村 のぶ子 山中 照子 谷口 和貴子 松浦 美保子 森下 雅代 |
| 22 | 児童福祉 | 2 | 第2小研修室 | 10:50～11:10 | 遊びきる子どもをめざして ～子どもが意欲的に遊べる保育者の配慮とは～ | 子どもが遊びきる姿とはどのような姿なのかをとらえ、保育実践を通して、子どもの心情や意欲を読み取りながら、主体的に遊ぶための保育者の援助や環境校正のあり方について考察する。 | タナカ チトセ 田中 知歳 | 社福）鳥取福祉会 津ノ井保育園 | |
| 23 | 児童福祉 | 3 | 第2小研修室 | 11:10～11:30 | 地域と共に育つ～地域力を生かして～ | 人とのつながりが希薄になっている社会の中で、保育園がその仲立ちとなって、積極的に地域と繋がっていくことが求められている。子どもたちが地域に支えられ、地域と共に育っていることを肌で感じることができるよう取り組みを目指して地域交流を進めているが、まだ十分とは言えない現状がある。今回はその一端を紹介しご意見をいただくことで、今後の取り組みをステップアップしたい。 | ヤブモト シノブ 藪本 志保 | 社福）みのり福祉会 西倉吉保育園 | 湖山 余至子 中江 ゆかり 河田 美貴恵 |
| 24 | 地域福祉 | 1 | ベッド・トイレ実習室 | 10:30～10:50 | 誰もが外出しやすい地域を目指して ～アンケートを用いた取り組み～ | 理学療法士として出会うご家族や利用者、関連職種等から、外出困難の訴えが聞かれる。交流クラブの企画への参加や個人の生活場面への同行等を通して、「外出先の情報不足」が外出困難の理由と考えた。外出支援活動による飲食店との連携を通して、外出に求められる情報を調べる為、アンケート調査を実施した。得られた効果を考察し、外出に求められている情報についてまとめた。 | フクヤマ マサキ 福山 真樹 | 医）養和病院 リハビリテーション課 | 北原 侑 土中 伸樹 内藤 佳良子 森 卓也 |
| 25 | 地域福祉 | 2 | ベッド・トイレ実習室 | 10:50～11:10 | 伝・創・改・除の居場所づくり ～レインボーサロンの小さな試み～ | 独居・老夫婦のみの家庭が増加している現状の中、各地で高齢者の居場所づくりが進められている。この居場所をより豊かで魅力ある場所にするために、活動や学習の内容の質をどう高めるかという課題意識のもと、伝・創・改・除という視点から取り組みを進めた。 | カサタ マユミ 加持谷 真樹 | 江府町老人クラブ連合会 | |
| 26 | 地域福祉 | 3 | ベッド・トイレ実習室 | 11:10～11:30 | 鳥取流安心生活総合支援ネットワーク形成事業に3年間取り組んで ～地域の福祉ニーズを把握するために取り組んできたこと～ | 地域・個人の福祉ニーズ把握のために3年間取り組んできた5つの取組みについての内容、成果、課題を報告し、課題について今度への対応として働きかけの方法、支援の支店などを考察しました。 | ヒラギ シンヤ 平木 慎也 | 社福）若桜町社会福祉協議会 | 田中 一志 |

| No. | 分野 | 分野No. | 分科会場 | 発表時間 | 発表テーマ | 発表要旨 | 研究代表者氏名 | 研究代表者所属機関・団体 | 共同研究者（所属省略） |
|-----|-----------|-------|------------|-------------|--------------------------|--|--------------------|---------------|---|
| 27 | 地域福祉 | 4 | ベッド・トイレ実習室 | 11:30～11:50 | 高齢者クラブが実施する傾聴ボランティア活動の実際 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者クラブが地域支え合い活動の一環として「お話し相手ボランティア」（傾聴活動）を月に3回程度実施、高齢者クラブの活動として大きな柱となる（高齢者クラブの中で高齢者に対してできる活動である） ・活動は2年を経過し、受け入れ側（老人福祉施設）にも定着してきた。 ・傾聴を受けたご利用者さんは、日常生活の良い刺激となっている他、話すことで満足感を得、過去の話は昔のことを思い出し脳の刺激にもなり活性化されている。 ・活動では相手の話にあいづちを打ち、大きく笑顔でうなづき、言葉を繰り返しながら聞き、相手の立場になり共感できるように努めている。 ・活動する側は「傾聴」について研修会等で基礎知識を学ぶ他、毎月の定例会で活動の様子を報告し合い、戸惑った時などはどうすればよかったか？などを豊富な経験者であるアドバイザーの米子傾聴しあわせの会代表の岡田浩さんに伺うなど、繰り返し研鑽を積み重ねている。 ・活動する側は関わりの中で学びを得てやりがいを見出している。 ・今後の課題については、会員の増強と活動の拡大、傾聴技術の向上、成果の見える活動を目指していきたい。 | ナカムラ トミコ 中村 登美子 | 境港市ことぶきクラブ連合会 | 足田 京子 門脇 真澄 岡田 浩 太田 淳 渋谷 博子 川口 昭一 松永 林造 近藤 公 川端 恵子 松本 秀夫 仲田 充子 遠藤 博江 足立 光枝 橋本 朱美 松本 利春 阿部 恵子 磯田 和子 志賀 智子 |
| 28 | その他社会福祉領域 | 1 | ベッド・トイレ実習室 | 13:00～13:20 | 21世紀型の福祉事業「互恵互助」社会を目指して | <p>わたくしたち「こうほうえん」は地域とともにお互いが助け合い、お互いが幸せを分かち合う「互恵互助」の精神を法人の価値として育み、「互恵互助」社会を目指して新たなニーズに応えるべく、皆様とともに21世紀型の福祉事業に取り組んでまいりました。</p> <p>発足3年目を迎える「地域総合支援室」の果たしてきた役割とその成果を公表し、広く皆様にご指導ご協力いただく課題を提供し、21世紀型の福祉事業の実現を目指していきたいと考えています。</p> | タヤマ ヤスヒサ 田山 泰久 | 社福) こうほうえん | |
| 29 | その他社会福祉領域 | 2 | ベッド・トイレ実習室 | 13:20～13:40 | 生活保護業務に関わる社会福祉士についての考察 | 生活保護制度の概要をまとめ、社会福祉士が生活保護業務に関わることについて考察した。 | ヤクラ 矢倉 あかり | 日吉津村役場 | |